

南在情報第五號

大正十二年十一月五日

佐藤南洋群島在勤海軍武官

海軍省副官殿

第三課

第一課

米艦ミルウォーキー来航ノ件

本件ニ関シトラック支廳警務課長報告及當時小官並南洋廳ニ於テ發受シタル電報別紙甲乙號ノ通右送付ス

別紙十二葉添

送付先一軍令部第三班長、海軍省副官、横鎮參謀長宛

海軍(終)

事務局 12.12.8

0385

別紙

甲

(乙) 米艦の行動

ト敬言秘第六四ノ二號

大正十二年十月五日

トラツク支廳敬言務課長

佐藤海軍在勤武官殿

米艦ノ行動其ノ他ニ關スル件

米國軍艦「ミルウォーキー」九月二十八日午後二時當地入港
全三十日正午本管区内「ホル」群島及「モートロツク」群島ヲ巡
航ノ上英領「ラバウル」ニ向テ豫定ヲ以テ出港致候同艦乗航後
碇泊中及其ノ後ノ行動ニ關シ左記ノ通此般及報告候也

左記

一 出入年月日

美濃全葉十三行部紙

0386

大正十二年九月二十八日午後二時當「トラック」入港

大正十二年九月三十日午出港

同日午後五時「ホー」群島「ノムウイン」島着

同十月三日午前九時全發今日午後五時「トラック」環礁

北東水道側「タル」モール島着直「ラバウル」向ヶ出發

二、艦名 ミルウオーキー

三、國籍 米國

四、艦種及艦數 巡洋艦 八千餘 9.5

五、乗組員及便乗者

最初五百人乗組ミ居リ「モ」レドニ「ミ」於テ「キ」ル名逃亡

セル「ミ」依リ現時四百六十一人ナリト 便乗者ナシ

六、入港ノ目的及目的達成ノ概要

同艦入港ト同時ニ訪問ノ際來航ノ目的ニ付キ「ミ」タル處同

(小笠原圖納)

0387

艦ハ本年六月ノ完成ニシテ初航海ヲ兼本國政府ノ命ヲ受ケ巡航ノ爲メ来島セルモノナリト答ヘタリ

要スルニ委任統治後ニ於ケル日本政府ノ施政其ノ他ヲ觀察センカ爲来航セルモノト認ナラレルニ依リ相當目的ヲ達成セルモノト思料セラレ

〔佐藤一註〕 他ノ目的地ハ航行ノ途次寄港セシマス又ホール群

島モトロツク群島ノ如キ何等民政施設ナキ

離島ヲモ視察スル目的ナリシ点ヨリ見レハ軍事

的調査ヲ主眼トセルヲ疑ナシ

七、帝國官憲ノ入港許可ノ有無

本國政府ノ命ヲ受ケ巡航セルモノナリト先方ノ言ニ依リ日本

間ニ於テ相當ノ解アルモノト思料シタリ

八、踏査箇所

踏査ト云フ程度ニテラス

九、撮影及採取

相當視察セル如クナルモ陸上ニ於テ撮影及採取等ナシタルモノナシ

一〇、測量又ハ類似ノ行為

為シタルモノナシ

二、在住民ト往來接觸ノ状況

同艦「ホール」群島巡航ニ付キ水先案内トシテ當地在留佛

人「ネデリック・ピール」

(三十五年來本島ニ住シ
邦人ト親シ居ルモノナリ)

ナル者ヲ陸地入レ度

旨申出ラタルニ依リ之ヲ承認シ三十日正午當地出發「ホール」

群島ニ向ヘリ十月四日午後五時全人帰島上直ニ支廳長ヲ

訪問セルニ依リ同艦ノ行動甚ク他ヲ聴取セルニ九月三日午後

五時「ホール」群島ノ「ハウイン」島着翌一日士官及下士官

約八九名上陸及視察セル由ナルモ測量及撮影等ヲ為シタ

モノナク二日出港ノ豫定ナリシモ暴風雨ヲ出港不可能ノ為ニ碇
 泊三日午前九時全島霧ノ午後五時「トラツク」環礁北東水道
 側ナルモール島ニテ退艦シタリトノ報告ナシタリ尚ホ同艦ハ
 行動豫定日数ヲ超過シ燃料重油ノ欽令ヲ来セルニ依リ
 航路ノ豫定ヲ変更シ「モートロツク」寄港ヲ見合セ「バウル
 ニ直航」スト旨ヲ同人ニ告ケタリト
 其ノ他日本統治後ニ於ケル施政ノ情況等ヲ同人ニ尋ネタルモ
 西班牙及獨領時代ニ比シ遙ニ佳良ナル旨答ヘタリト
 右ノ外唯西班牙人宣教師「レ・ボー」カ活動享真ヲ觀
 覽(米帆上ニ於テ)セル外當廳職員以外接觸セルモ未ダ認メ
 二三接觸者ノ言動及思想
 別段不穩ノ言動ナク思想上ニ於テモ変化ナキモノ如シ
 三、其ノ他必要ナル事項

同船ト交渉其ノ他ノ願未

九月二十七日午後三時無線電信所ヨリ當郵便局電信課宛
左ノ電アリ

Please listen for United States ship hulawapsee
on continuous wave 1080 meters at 8 am Japan time
from 28th September until her arrival at Suva.

Rebault Radio

翌二十日午前米艦長ヨリ更ニ左ノ電アリ

Radio Suva

Expect arrival Suva afternoon September twenty
eight is there a pilot available at Suva?

Mr. C. Anderson

Captain W. S. Hoag Commanding

(小林部 録)

0391

茲ニ始メテ米艦ノ來航ヲ確實ニ知リスルコトヲ得タルモ餘リ突然ノ
 事故兎ニ南小燕汽艇ヲ水先案内トシテ差遣スルハリ奔走モ
 折悪シク當廳及南洋貿易會社支店所有ノ小燕汽艇モ故障ヲ
 生シ修繕中ナリシヲ以テ水先案内ヲ爲ス得ク其終尚種々研究
 中ノ處午後二時ニ至リ入港投錨セリ依テ午後三時支廳警察
 技牛及警部補 通譯二名(内名米人ニシテ十年餘本島ニ居候シ極
 ノテ溫厚ノモノナリ)ト共ニ同艇ヲ訪問セシメ船長及軍医長應対セルヲ
 以テ支廳長ハ先ツ遠來ノ航ヲ労ヒ且ツ母國今固一震災ニ對シ米
 國官民ヨリ愛ケレヌ大ノ援助ヲ深謝シタル後尤ノ如キ談話ヲ
 交換シタリ

支廳長問、本船ハ何レヨリ如何ナル目的ニ來航セラルシヤ

船長答、本國「フシントン」出港「ホノルル」ニ於テ本群島巡航ノ命ヲ

受ケ「レドニー」、「ブリスバートン」經由來島セリ尚ホ本船ハ

本年六月完成セルモノシテ初航海ヲ業ネ巡航ニシルモノナリ

問、何日出港何レ方面ニ向ハルヤ

答、三十日當港出發「ホール」及「モートロック」群島巡航上「ラバウル」ニ向フ豫定ナリ

問、本艦ニ病者等ナキヤ

答、健康状態良好ニシテ別段傳染性患者ナシ

船長、問、本群島ノ人口幾何ナリヤ

支隊長、答、一万五千人ナリ（「トラック」管区内）

問、陸上傳染病ナキヤ

答、ナシ

問、日本人、幾何居住スルヤ

答、約二百五十人

八小松印刷所

0393

問、本廳ハ何レニアルヤ

答、ハラオニ在リ

問、本港ニ於テ士官以上若干モ一澳ヲナレタシ差支ナキヤ

答、差支ナキモ不安内ノモノハ魚類ノ生棲ス個所不

明ニ付小官自リ寄贈スヘシ

問、乗組員ノ小數上陸差支ナキヤ

答、差支ナシ

其他雜談ノ後最後ニ艦長ハ艦内一覽如何トノットナリシヨリ

支廳長ハ辭退スル旨速ヘタルモ是非一覽アリメントテ自ラ案

内ヲナル種々説明サレタリ一覽ニ全艦ハ頗ル最新式ノモノ

ノ如クミシテ飛行機二台(一台ハ破損)魚形水雷十個備付アリタリ

午後五時一同同艦ヲ辭スル際ニ艦長以下艦門ニ整列シ

支廳長ハ對シ禮砲ヲ發射セルニ依リ嚴肅ニ答礼タリシ

帰廳シ直ニ貴官宛米能来航ノ旨電シタリ

翌二十九日午前十時艦長、副長ヲ從ヘ答礼、爲支廳長ヲ訪
問セシ依リ相當ノ好意ヲ以テ之ヲ迎ヘ茶菓等ヲ供シ接待シタ
ニ艦長ハ種々談話ノ後午後二時ヨリ五時迄一時間艦内巡覽セラレ
度旨ト午後七時ヨリ艦内ヲテ活動写真ヲ映写スル付支廳
長始メ部下職員モ觀覽相成友旨ヲ申出テ同午前十時
三十分殊ノ外満足ノ意ヲ表シ帰航セリ 同時ニ支廳長ヨリ
生魚三百有餘尾並多量ノ生野菜ヲ寄贈セリ
艦長ヨリ招待ニ依リ午後二時ヨリ職員及家族八名艦内ヲ
巡覽シ午後七時ヨリ支廳長及病院長ヲ始メ約三十名迄
動写真ヲ觀覽シ茶菓ノ饗應ヲ受ケ午後十時三十分退
航セリ

同日午後二時ヨリ米能將校下士等佛等約三十名上陸

(全部帶劍セス) 南洋貿易會社支店所在地ヨリ支廠ニ至
ル間ヲ散策シ南買支店及他ノ飲食店ニ於テ飲食シツツアル
モノヲ認メタリ尚因ニ巡警及私服巡査ヲ通商ノ地ニ配シ穂
密ニ兵員ノ行動ヲ觀察セシメタルモ何等ノ都合ト思料スル
点ヲ認メス上陸員ハ午後六時頃帰船シタリ
翌三十四日正午果船ハ水先案内ヲ便乗セシメ「ホール」群島ニ向ケ
出港シタリ依テ支廠長ヨリ貴官宛出港ノ旨電報ナシタルニ
ナリ

然ル處十月一日附米船入港ノ件ニ関シ内務部長ヨリ第一訓
電ニ接シタルニ依リ種々研究ノ結果米船ニ對シテハ兎ニ南支
廠長ハ船長宛直ニテ電ヲ牽送シタリ

御來島ニ就キテハ日本政府ニ御通知相成シヤ御伺申上ル
十月二日米船ヨリテ電アリタリ

Shimadzu Governor

Reference your message I have not reported
visiting I think to Japanese Government.

W. C. Johnson Captain U. S. Navy.

依テ支廳長ハ折リ返シ船長宛テ一通電ヲ

貴船當地御来航ノ件日本政府ハ御通知相成度

十月二日更ニ米艦ノ件ニ関シ内務部長ヨリ第二刻電ヲ

接受シタリ

次イテ十月三日船長ヨリ左ノ電アリタリ

Governor Thank

I have not authority to communicate with
Japanese Government.

I have made known your request to my

(小林印加納)

0397

Government who will no doubt inform
Japanese Government.

Mr. C. Anderson, Captain U. S. Navy
同日米船の来る第三訓電ヲ接受(内務部長ヨリ)ニヨリ
支廳長ハ船長ニ對シテ電ヲ索シタリ
『船長以下御一同御航海ノ安全ヲ祈ル』
同時ニ船長ヨリテ電ヲリタリ

Left pilot Netter on beach Island at five P.m.
Mr. C. Anderson.
次日米船ヨリテ電ヲリタリ

Shimoda Governor Smith.
Thanks you for your kind wishes.
I wish you and the others in Smith's

0398

successful administration of the island
for the time appointed then a safe and
happy return to your families in Japan.

W. C. Johnson Captain.

尚水先案内トシテ同船。便乗セル佛人ヲテリソリ退船ノ際
廳長宛テ書面ヲ船長ヨリ委託セル様アリ

United States Fleet, Battle Fleet

W. S. S. Underwood at Sea

Enroute To Rabaul, New Britain,

3 October 1923.

His Excellency, The Governor of Tok
shu:

In compliance with your dispatch of the first

0399

instant requesting that I report the visit of the Milwaukee to Tokyo to the Japanese Government, I have to inform you that your wishes in the matter were forwarded to our Navy Department,

In reply, the Department informed me that this American Embassy at Tokyo was mailed advice of our intended visit to Tokyo under cover of August 1, 1923. and your lack of information to date may be due to the recent disaster in Japan. The question has been referred to our State Department for disposition.

I take this opportunity to express to you again, for myself and on behalf of the officials

133

1923

and all the crew, our appreciation and deep
thanks for your many courtesies extended us
during our pleasant but short stay in Iwakuni.

Respectfully yours,

W. C. Anderson, Captain U. S. Navy Commanding
Idem Shimakura Governor of Iwakuni.

(終)

0401

別
紙
乙

米艦「ミルウォーキー」 「トラック」方面巡航ニ 際シ受テ發セル電報		在勤武官関係ノモノ	第一信 九月二十九日發 同 三十日受	「トラック」支廳長發	パラオ在勤武官宛	信文	二十八日午後二時米艦「ミルウォーキー」(ハッパル)「プレスビー」ヨリ 入港三十日發 ホール、モートロツクヲ經テラバウルニ向フ筈	第二信甲 九月三十日發	在勤武官發	
---	--	-----------	--------------------------	------------	----------	----	--	-------------	-------	--

美濃全葉十三行紙

0402

海軍省副官宛

信文

米艦ミルウオーキー(ハ○○○A) 二十八日ブリスベンヨリトラツク
入港三十日条ホル、モートロツクヲ経テラバウルニ向フ筈ノ
旨トラツク支廳長ヨリ電報アリ、右不聞港場寄港ニ就キ
交渉済ナルヤ、三十日

第二信乙 九月三十日条

在勤武官条

横須賀鎮守府参謀長宛

信文

米艦ミルウオーキー(ハ○○○A) 二十八日ブリスベンヨリトラツク
入港三十日条ホル、モートロツクヲ経テラバウルニ向フ筈ノ

旨トラツク支廳長ヨリ電報アリ、右不開場寄港ニ就キ
交渉済ナルヤ海軍省副官ニ電照中、三十日

第三信

十月一日
十月二日

トラツク支廳長

パラオ在勤武官宛

信文

米艦ミルウオーギー三十日正午當管内ホル群島並モートロツク
ヲ經テラバウルニ向ケ出航セリ

第四信

十月二日

在勤武官

海軍省副官宛
横領参謀長

0404

信文

米艦ミルウオーキー三十日正午、ホール群島及モートロツクヲ経テ、
ラバウルニ向ケトラツク。一旨支廳長ヨリ通知アリ、尚南洋
廳ハトラツク支廳長宛、右不開港地寄港ニ関シ日本政府ノ
諒解ヲ得タルモノナルヤ取調ヘ、若シ然ラサルモノナラハ寄港見
合サレ度旨同船ニ通告スル様訓電セリ、二日、宛海軍省副
官横鎮参謀長

第五信

十月三日受

海軍省副官

在勤武官宛

信文

米艦(ミルウオーキー)ニ付テハ、ロングラツグ、エニウエツ、ホール、

美濃全案十三行部紙

トラツク、モルトロツク、ニ寄港方通知ニ接シタリ

南洋廳對トラツク支廳ノモノ

第一信 九月三十日 糸

（トラツク支廳長報告書中第一訓電トアルモノ）

南洋廳内務部長 糸

トラツク支廳長宛

信文

米船貴地及貴管内へ寄航ノ件ニ付キテハ中央政府ヨリ
何等通牒ナレ米船ニ果シテ日本政府ノ承認ヲ得タルモノナラ
バ尋常セヨ若シ承認ヲ經サルモノナラハ中央政府ヨリ何令ノ訓
令アル迄寄航見合サレ度キ旨傳ヘラレ度依命（不聞港地ニ
入港シ得ス爲念）

0406

第三信

十月二日奉

(トラツク支廳長報告書中より三訓電トアルモノ)

南洋廳内務部長奉

トラツク支廳長宛

信文

船

米國入港ノ用向及當時取調ノ顛末折返返電アレ仍ホ同船

ニ對シ無線電信ニテ前電ノ通日本政府ノ承認ヲ經サルモノナラ

ハ開港以外ノ港ニ寄港スヘカサル旨通告アレ依命

第三信

十月三日奉

(トラツク支廳長報告書中より三訓電トアルモノ)

南洋廳内務部長發

トラツク支廳長宛

信文

米船入港差支ナキ旨 拓殖事務局長ヨリ電報アリ右リ

知上可然取計ヒアレ

附記

トラウク支廳長ヨリ南洋廳宛前掲在勤武官宛ノ
モト同様電報着又南洋廳ト拓殖事務局ト間ニ
米船寄港ニ関シ照復電報アレモ略ス

(統)

(四六小)

0408

外高秘茅四七五五號

大正十二年十一月六日

長崎縣知事堀内秀太郎

軍務局

法務局

軍令部

第二課

内務大臣 子爵 後藤新平 殿

外務大臣 男爵 伊集院彦吉 殿

陸軍大臣 男爵 田中義一 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

警視總監 湯浅倉平 殿

米國軍用船ニ関スル件

米國陸軍々用船ト一マス 號ハ馬尼拉ヨリ 泰
皇島ヲ經テ本月二日入港シタルガ 全船ニ當



0409

地上陸トシテ全國陸軍大尉アール・シー・ウルフ
(R. W. Wolfe) 指揮引率ノ下ニ全國軍人軍属
家族等六百七十一名、全國海兵團附海軍
少將ダブル・エ・シー・ネヴィル (D. E. Neville) 露
國元海軍大佐エリイ・イン (E. J. In) 本人ニ関
シテハ別途報告ノ筈外ニ馬尼拉ヨリ米本國へ
護送ノ途ニ在ル全國犯罪人八名各便乗シ
居タルガ在港中全船乗込ミ全國陸軍歩兵
卒二名が上陸酔餘輕微ナル暴行竝ニビール
代不拂ノ事件發生シタルモ被害者ニ對シ直
ニ相當損害ノ辨償ヲナシタル外異状ナク三日
午後五時二十分桑港へ向ケ出帆シタリ而シテ
當地ヨリ東京米國大使館附陸軍少佐ウ

0410

イツセル夫妻子女二名全上書記
ド夫妻タル長崎駐在補給廠書記
都合七名乗船出奔シタリ
(3)

0411

供覽

寫送付
海軍大臣殿
外務省

軍務局

軍令部

快
覽
百

公第四四九號

大正十一年十二月十六日

在マニラ

總領事 杉村 恒造

外務省
第二課
内田 康哉 殿

第二課 局員

米國軍艦本邦訪問ニ關スル件

本官此程新任米國亞細亞艦隊司令長官海軍大將「イー、エー、アン
ダーソン」ヲ旅艦「ヒューロン」ニ訪問致候處其際同大將ニハ來春
四月頃旅艦「ヒューロン」ノ外驅逐艦六隻并ニ旅艦付屬船「ゼネラ
ル、アラバ」號ヲ卒ヒテ横濱ニ向ヒ碇泊中我皇室ヲ始メ帝國海軍ヘ
敬意ヲ表シテレヨリ神戸ヘ歸航シ同五月大阪ニ開催セラルル極東運

第一班

三令

已就川親

0412

(已 號 用 紙)

勳競技大會ニモ參列シタキ希望ナル由洩サレ居申候

本件ニ付テハ何レ確定次第在京米國大使館附海軍武官側ヨリ其筋へ
通知有之ヘキコトトハ存候得共右聞込ノ儘何等御參考迄ニ貴聞ニ達
シ度ク此段申進候 敬具

追テ同大將ハ今ヨリ二十年以前ニ本邦へ來遊シタルコトアル趣ニ
有之候

外
務
省

0413